

# ジャパンラグビー 2026年度事業計画

---

公益財団法人 日本ラグビーフットボール協会

## ジャパンラグビー 2026 年度事業計画 目次

|                         |    |                |    |
|-------------------------|----|----------------|----|
| ジャパンラグビー 2026 年度事業計画 概要 | 3  | 専門委員会          | 17 |
| 2026 年度事業計画             | 4  | ガバナンス委員会       | 18 |
| 強化                      | 5  | コンプライアンス委員会    | 18 |
| エンゲージメント                | 6  | 監査委員会          | 19 |
| 普及育成                    | 7  | ハイパフォーマンス委員会   | 19 |
| 女子ラグビー                  | 8  | ユース委員会         | 20 |
| 組織基盤                    | 9  | アスリート委員会       | 20 |
| 財務基盤                    | 10 | 安全対策委員会        | 21 |
| CEO 直轄組織                | 11 | メディカル委員会       | 21 |
| 活動スケジュール                | 12 | 競技運営委員会        | 22 |
| 男子 15 人制                | 13 | 普及育成委員会        | 24 |
| 男子 7 人制                 | 15 | 女子委員会          | 25 |
| 女子 15 人制                | 15 | アンチ・ドーピング委員会   | 26 |
| 女子 7 人制                 | 16 | 財務委員会          | 26 |
|                         |    | 三支部協会          | 27 |
|                         |    | 関東ラグビーフットボール協会 | 28 |
|                         |    | 関西ラグビーフットボール協会 | 30 |
|                         |    | 九州ラグビーフットボール協会 | 33 |

## ジャパンラグビー 2026年度事業計画 概要

平素より、ジャパンラグビーへ熱いご声援を賜り、心より感謝申し上げます。2026年度、設立100周年を迎えました日本協会の事業計画についてご説明申し上げます。

2025年度よりスタートした「中期戦略計画2025-2028」では、ラグビーワールドカップの近い将来での日本招致を目指して「競技力の強化」「収益力の強化」「関係人口の拡大」「基盤強化」という4つの成長サイクルを設定しました。そして、この成長サイクル全体を「価値基盤」と位置づけ、その内側に「強化」「エンゲージメント」「普及育成」「女子ラグビー」「組織基盤」「財務基盤」の6つのPillarを置きました。つまり6つのPillarに紐づく事業は、全てラグビーの価値に繋がる、すなわち「価値基盤」を形成することを意味します。「価値基盤」は、最高事業統括責任者（CEO）が遂行責任者となり、他の6つのPillarはそれぞれの担当組織を管掌する事業遂行責任者（CxO）が遂行責任者となって、事業を進めます。

本計画の策定にあたっては、昨年12月から2月にかけて、事業遂行責任者が中心となって、2025年度事業の振り返りを行った上で、「中期戦略計画2025-2028」で掲げた目標必達のため、2026年度の運営方針と取り組むべき事業計画を策定しました。

**「強化」** 競技力を向上させ、国際大会での活躍をステークホルダーの共感に繋げます。また、競技力向上の環境基盤として、世界水準のリーダーやコーチの輩出、プレーヤーウェルフェアの整備を進めます

**「エンゲージメント」** 収入拡大のため、新規協賛の獲得、放送配信権

の販売、チケット収入などに取り組みます。合わせて、収支改善施策を実施し、稼ぐと言う意識を持って業務を推進します。

**「普及育成」** 誰もが、いつでも、どこでも、ラグビーを楽しめるように、ハードルを低くし、価値を上げ、長く関われる環境をつくることで、プレーヤー10万人、登録者12万人、体験者120万人を目指します。

**「女子ラグビー」** 「持続的なバスウェイ構築」「女子ラグビーコミュニティの構築」「リーダーシップ育成」を継続し、女子ラグビーとしての目標達成を目指します。

**「組織基盤」** 業務の効率化をリードすると同時に、創意工夫によるコスト効率化のための施策を遂行します。また、100周年を契機とした、組織改革・カルチャー再構築に資する施策を遂行し、組織の高度化を推進します。

**「財務基盤」** 各種法令や会計基準に準拠した適正な会計処理を継続した上で、予算管理の手法を見直します。合わせて、事業拡大に対して効率的な収支・投資管理を目指します。

**「価値基盤」** ラグビーに関わる全ての人々が、ラグビーの価値を考え、高め、守り、伝えられるよう、日本協会全体で取り組みを推進します。

この他、JAPAN BASE（福岡）では、事業戦略の再整備を行い、新たな目標設定を行いました。

100周年を迎えた日本協会、これまでのジャパンラグビーを支えて下さった全ての方々に感謝申し上げますと共に、新たな時代にふさわしいチャレンジにも積極的に取り組んでまいり所存です。引き続きご支援、ご協力を賜りますよう、宜しくお願い致します。

# 2026 年度事業計画

---

強化

エンゲージメント

普及育成

女子ラグビー

組織基盤

財務基盤

CEO 直轄組織

## 【強化】

| 2026 年度運営方針（CRO）   |  | 中期戦略計画における KPI   |
|--|--|--|
| 15 人制/7 人制それぞれの競技力を向上させ、国際大会での活躍をステークホルダーの共感に繋げ、永続する競技として更なる成長を目指します。また、競技力向上の環境基盤として、世界水準のレフリーやコーチの輩出、プレーヤーウェルフェアの整備を進めます |  | <p>（プレーヤー）男子 15 人制：世界ランク 10 位、代表キャップ数 600（2027 年）、女子 15 人制：世界ランク 8 位、7 人制：セブンズシリーズ定着、男子：M7 定着、女子：トップ 8 定着、重症事故：0 件</p> <p>（レフリー）ワールドカップレフリー・五輪レフリー1 名輩出、フルタイムレフリー育成 6 名</p> <p>（コーチ）ハイパフォーマンスコーチの発掘と育成</p> |
| 遂行組織   | 事業計画   |  |
| 代表強化部門   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・NC（ネーションズチャンピオンシップ）・PNC（パシフィックネーションズカップ）</li> <li>・テストシリーズでの勝利（国際マッチでの経験値を強化に直結させる）</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・若手層の強化を通じた将来性への投資の実行</li> <li>・7 人制：国際経験値の拡大</li> <li>・アジア競技会男女金メダル</li> </ul>   |
| ハイパフォーマンス部門  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハイパフォーマンスプロジェクト</li> <li>・コーチ育成・評価</li> <li>・開発・科学情報</li> </ul>                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハイパフォーマンスレフリー育成・強化</li> <li>・ディベロップメントレフリー普及・育成</li> </ul>   |
| テクニカルサービス部門  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワールドラグビートレーニング&amp;エデュケーションと JO/CC/CCL*1 の育成</li> <li>・ワールドラグビーギユレーションの運用</li> </ul>           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・リーグワンでの代理人登録制度の運用</li> <li>・メディカル体制の整備</li> <li>・安全対策制度の運用</li> </ul>  |

\*1 ジュディシヤルオフィサー/サイティングコミッショナー/サイティングコミッショナーリエゾン

## 【エンゲージメント】

| 2026 年度運営方針 (CMO)   |   | 中期戦略計画における KPI   |
|---|---|--|
| <p>協会の財政基盤の中核をなす収入部分を担う、マーケティング部門、メディア事業部門、大会運営部門では、現状の収入機会の確保はもちろん、さらなる収入拡大のために新規の協賛社の獲得、放送・配信権の販売、チケット収入の拡大を目指して、3 部門だけでなく、他部門とも連携します。同時に、事業の収支構造を理解し、効率化だけない改善施策を実施します。コスト削減＜収入増に重きを置いた人員配置をし、一人一人が協会全体の財政を支えるために、「稼ぐ」という意識を持って、業務を推進できるようにします</p> |   | <p>入場料収入：年間 20 億円<br/>           放映権料：年間 10 億円<br/>           協賛金：年間 30 億円<br/>           ジャパンラグビーID・ファンクラブ：5 万人・5 億円</p>            |
| 遂行組織  | 事業計画  |  |
| マーケティング部門   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・既存の代表協賛のサービス提供と 28 年の更新に向けた満足度強化</li> <li>・大学選手権、高校大会における協賛社獲得による収益増大</li> <li>・現状掛かる費用の洗い出しと効率化を含めた改善</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ジャパンラグビーマーケティング (CRM) と大会運営と連携した興行収入の最大化</li> <li>・広報室とも連携した PR 施策実施によるエンゲージメント強化</li> </ul> |
| メディア事業部門  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・放映権関連事業の強化・整理</li> <li>・地上波での代表戦ニュース露出増</li> <li>・学生ラグビーの露出最適化</li> </ul>   |  |
| 大会運営部門  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・男女国際試合におけるステークホルダーの満足度向上と大会収支の最大化</li> <li>・男女国内興行大会における運営水準の担保と収支の適正化</li> </ul>                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・運営人材の育成</li> <li>・その他国内大会の体制整理、運営準備と実施</li> </ul>  |

## 【普及育成】

| 2026 年度運営方針（CDO）  | 中期戦略計画における KPI  |   |
|---|---|---|
| <p>中期戦略計画の普及育成 Pillar における 4 つの領域（プレイヤー、登録者、体験者、推進体制強化）に沿って、日本協会普及育成部門と普及育成委員会各部門が、三支部協会、都道府県協会と連携して、「誰もが、いつでも、どこでも、ラグビーを楽しめるように、ハードルを低くし、価値を高め、長く関われる環境をつくる」ことで、プレイヤー10万人、登録者12万人、体験者120万人を目指します</p> | <p><b>（プレイヤー）</b><br/>           登録プレイヤー数：88,000 人<br/>           SMBC カップ参加者数：12,000 人<br/>           プレイヤー継続率：今後設定*2<br/>           地域大会の開催数：今後設定*2<br/>           プレイ環境の整備（定性目標）</p> <p><b>（登録者）</b><br/>           コーチ資格者数：13,000 人<br/>           レフリー資格者数：今後設定*2<br/>           登録役員数（Safety Assistant（SA）、マネージャー他）：11,000 人<br/>           登録者の満足度：初回調査後に設定<br/>           全世代パスウェイの整備（定性目標）</p> | <p><b>（体験者）</b><br/>           ノンコンタクトラグビープログラム（定性目標）<br/>           体験会及びイベントの参加者数：30,000 人<br/>           学校教育におけるタグラグビー体験者：1,100,000 人<br/>           SNS フォロワー数：3,000 人<br/>           JAPAN RUGBY TV（普及育成関連）視聴者数：350,000 回</p> <p><b>（普及育成活動の推進活動体制強化）</b><br/>           日本協会普及予算：5 億円 or 日本協会全体予算の 5%<br/>           スタッフ数：職員 13 人、専門官 9 人、RDO14 人<br/>           RDO 配置数：11 エリア+三地域</p> |
| 遂行組織  | 事業計画  |   |
| <p>普及育成部門</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ コーチの質の向上</li> <li>・ プレイ環境の整備</li> <li>・ ゲーム機会の拡充</li> <li>・ プレイヤーウェルフェア</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ノンコンタクトラグビーの拡充</li> <li>・ 国際協力プログラムの推進</li> <li>・ 地域における普及育成戦略計画の推進</li> <li>・ 普及育成の情報発信</li> </ul>  |

\*2 新たな登録システムへの移行後に数値を設定する

## 【女子ラグビー】

| 2026 年度運営方針 (DOWR)  |  | 中期戦略計画における KPI   |  |
|---|--|--|--|
| 2023 年に策定した女子ラグビー中長期戦略計画の 3 つの重点領域である「持続的なパスウェイ構築」「女子ラグビーコミュニティの構築」「リーダーシップ育成」を継続し、女子ラグビー中長期戦略計画で定めた方針の達成を目指します |  | <p>(する) 近隣県同士の交流活動数：12 地域での実施</p> <p>(みる) 日本代表戦平均入場者数：5,000 人、太陽生命ウィメンズセブンズシリーズ平均同時視聴者数：800 人</p> <p>(ささえる) 三支部協会・都道府県協会女性理事：1 名</p>                               |  |
| 遂行組織  | 事業計画   |  |  |
| 女子ラグビー戦略推進担当  | <ul style="list-style-type: none"> <li>三支部協会・都道府県協会における女子ラグビーの実態把握</li> <li>近隣県同士の定期的交流活動の実施</li> <li>育成パスウェイの構築</li> <li>パスウェイ構築上必要な大会の検証</li> <li>女子ラグビーブランディング策定</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>プロモーション施策の拡大</li> <li>三支部協会・都道府県協会に最低 1 名の女性理事を登用</li> <li>選手のニーズにあったキャリアセミナーの実施</li> <li>女性ハイパフォーマンスコーチアカデミーの実施</li> </ul> |  |

## 【組織基盤】

| 2026 年度運営方針（COS）   |  | 中期戦略計画における KPI   |
|--|--|--|
| 業務の効率化をリードすると同時に、中期戦略計画に掲げたアクションプランについて、費用対効果を精査し、優先順位付け・取捨選択を行い、創意工夫によるコスト効率化により、戦略計画に掲げる目指すべき成果を得るための施策を実現していきます。また、100 周年を契機とした、組織改革・カルチャー再構築・業務の高度化（効率化・高生産性化）に資する施策を遂行します |  | 1 人あたりの経常収入：8500 万円、都道府県協会の総収入額：1 億円増加、自治体と都道府県協会との連携事業の事例数：年間 47 件、自治体ワンチーム加盟自治体：全都道府県の加盟、不祥事：0 件、エンゲージメント指標：肯定率 50%<br>D&I 推進宣言：JRFU コミットメント 8 項目の達成 |
| 遂行組織   | 事業計画   |  |
| 総務部門   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・100 周年セレブレーションの完遂</li> <li>・情報セキュリティー強化</li> </ul>                             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・組織カルチャーの変革（固定概念からの脱却）総務業務多能工化と BPO 対応</li> </ul>   |
| 人事部門   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・人事制度のブラッシュアップ</li> <li>・教育体系に沿った研修の実行</li> <li>・人事関連規則の見直し</li> </ul>          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・効率化・経費削減を目的とした DX 推進（人事関連システムの見直し）</li> <li>・組織カルチャー再構築及び就業環境改善</li> </ul>                                     |
| 業務推進部門   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・JRFU 内の連携強化策の推進</li> <li>・SJP/JRFU 基金のさらなる充実</li> <li>・サステナビリティ推進統括</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・リーグワン・ジャパンラグビーマーケティングとの連携強化</li> <li>・自治体・自治体ワンチームとの連携強化</li> <li>・三支部協会・都道府県協会との連携強化</li> </ul>               |
| インテグリティ推進部門  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育プログラムの開発・強化</li> <li>・インテグリティ情報の発信強化</li> <li>・処分プロセスの整備</li> </ul>          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門家チームの体制強化</li> <li>・アンチ・ドーピングの推進</li> </ul>  |
| コーポレートセキュリティー  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・改正後のプライバシーポリシーの各サービスでの実装</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人情報取り扱いマニュアルの整備</li> <li>・個人情報取り扱い研修の継続実施</li> </ul>  |

## 【財務基盤】

| 2026 年度運営方針（CFO）  |  | 中期戦略計画における KPI  |  |
|---|--|---|--|
| 事業拡大に対して効率的な収支・投資管理を目指すと共に、各種法令や会計基準に準拠した適正な会計処理の追求を継続します。また、予算管理の手法を見直し、状況収集、報告頻度を増やしていきます |  | 一般正味財産の積み上げ：10 億円（単年度 2 億円以上）   |  |
| 遂行組織  | 事業計画   |   |  |
| 財務部門  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・支出ガイドラインの作成</li> <li>・投資効果測定と管理フローの検討・確立</li> <li>・事業規模拡大と法改正への適応</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・チェック機能の強化</li> <li>・収支予算の適正化と配分方針の検討と決定</li> <li>・既存システムの最大活用と周知</li> </ul> |  |

## 【CEO 直轄組織】

| 2026 年度運営方針（CEO）   |  | 中期戦略計画における KPI  |
|--|--|---|
| CEO 直轄の各組織では、それぞれに取り組む事業一つ一つが、ラグビーの価値を高めること、守ること、伝えることに繋がることを強く意識し、目標達成に向けて愚直に邁進します。特に 2026 年度は JRFU 設立 100 周年であることを踏まえ、この先を見据えて、新しいチャレンジにも積極果敢に取り組んでいきたいと考えています |  | コアバリュー概念整理（定性目標）  |
| 遂行組織   | 事業計画   |   |
| 広報室  | <ul style="list-style-type: none"> <li>ラグビーファン拡大、競技参画者数増につながるコミュニケーション施策</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>ラグビーの価値を守り高める広報活動</li> </ul>   |
| 国際室  | <ul style="list-style-type: none"> <li>海外からの情報の共有・海外への情報発信とジャパンラグビーのプレゼンスの向上</li> <li>ワールドカップ招致のプロジェクトを推進しながら、ジャパンラグビーのプレゼンスの向上</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>ワールドラグビー・アジアラグビーの戦略計画とのアラインメント</li> <li>社会連携・国際連携のための体制確立</li> </ul> |
| JAPAN BASE 事業推進室   | <ul style="list-style-type: none"> <li>安定・安心な施設運営運用</li> <li>2026 年経営健全化/ROA 改善</li> <li>中期戦略を見据えた成長ベクトル</li> </ul>                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>強固な組織基盤創り</li> <li>強靱な財務基盤創り</li> </ul>                              |
| リスク・ガバナンス室   | <ul style="list-style-type: none"> <li>事業計画の進捗モニタリング</li> <li>事業計画・事業報告・アニュアルレポート</li> <li>ガバナンスコードへの適切な対応</li> </ul>                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>危機管理・法務審査</li> <li>ラグビー重症外傷への最先端医療推進支援基金プロジェクト</li> </ul>            |
| 最高事業統括責任者（CEO）付  | <ul style="list-style-type: none"> <li>100 周年プロジェクト</li> </ul>   |   |

# 活動スケジュール

---

男子 15 人制

男子 7 人制

女子 15 人制

女子 7 人制

## 男子 15 人制

### 男子 15 人制日本代表

#### 1.強化方針

##### (1)「超速 AS ONE」の深化

日本人の強みである俊敏性と連携を最大化した「超速（CHO-SOKU）ラグビー」のアイデンティティを確立する。全員が共通のビジョンを共有し、日本独自の超速ラグビーを具現化するユニットを完成形へと持っていく年とする

##### (2)ワールドカップ 2027 年大会でのベスト 8 入り

世界トップチームとの対戦機会が増える新設のネーションズチャンピオンシップや、環太平洋の強豪が揃うパシフィックネーションズカップを通じ、格上の相手に対しても自分たちのスタイルを崩さない勝負強さと一貫性を養う

##### (3)次世代の早期引き上げ

大学ラグビー世代を対象とした JAPAN TALENT SQUAD (JTS) を通じ、国際試合の激しいコンタクトに耐えうる身体基盤と、超高速域での正確な状況判断力を早期に育成し、日本代表の層を厚くする

##### (4)ジャパン・ファーストの徹底

大学やリーグワンとの緊密な連携により、年間を通じて一貫した強化スタイルを共有し、世界基準のインテンシティ（強度）に適応できる選手を継続的に輩出する

#### 2.活動スケジュール

##### (1)日本代表テストマッチ

###### ネーションズチャンピオンシップ

- 第 1 戦 7 月 4 日 イタリア代表（秩父宮）
- 第 2 戦 7 月 11 日 アイルランド代表（豪州）
- 第 3 戦 7 月 18 日 フランス代表（国立）
- 第 4 戦 11 月 7 日 ウェールズ代表（カーディフ）
- 第 5 戦 11 月 14 日 イングランド代表（ロンドン）
- 第 6 戦 11 月 21 日 スコットランド代表（エディンバラ）
- ファイナルシリーズ 11 月 27～29 日（ロンドン）

###### リポビタン D チャレンジカップ

- 8 月 8 日 オーストラリア代表（花園）
- 8 月 15 日 オーストラリア代表（タウンズビル）

###### パシフィックネーションズカップ

- 9 月 5 日 カナダ代表
- 9 月 13 日 アメリカ代表（花園）
- 9 月 19 日 決勝戦（秩父宮）

##### (2)国内合宿（日本代表）

6 月 19 日～7 月 2 日宮崎、7 月 25 日～8 月 16 日網走、8 月 27 日～9 月 20 日宮崎、10 月 11～25 日（別府）

##### (3)海外遠征（日本代表）

7 月 5 日～12 日豪州、10 月 26 日～11 月 22 日欧州（ウェールズ、イングランド、スコットランド）

(4)JAPAN XV 試合

6月27日 リポビタンD チャレンジカップ (マオリ・オールブラックス (瑞穂))

(5)JAPAN XV 合宿

6月13日～25日宮崎

(6)JTS 試合

4月豪州遠征 Game 1、Game 2、Game 3、Game 4 (コフスハーバー、シドニー)

(7)JTS 海外遠征

3月29日～4月15日オーストラリア

**20歳以下 (U20) 日本代表**

**1.強化方針**

ジュニアワールドチャンピオンシップ ベスト8以上  
強化ポイント

- (1)強度の高い中でのトレーニング (リーグワンとの連携)
- (2)強度の高い相手との試合経験 (リーグワン、NZU)
- (3)高校代表から U20 までの一貫した強化
- (4)国内合宿日数の効果的な使い方

**2.活動スケジュール**

(1)国際大会

ジュニアワールドチャンピオンシップ (6月27日～7月18日ジョージア)

(2)国内合宿

4月16～25日、5月16～19日、6月15～20日、11月29～30日、2月4～5日、2月11～15日、2月18～19日、3月7～10日

(3)海外遠征

5月19～31日 ハミルトン (ニュージーランド)

**高校日本代表**

**1.強化方針**

第52期高校日本代表海外遠征での全勝  
強化ポイント

- (1)U20 と連携した一貫した強化
- (2)フィジカルパフォーマンスベンチマークの設定
- (3)マインドセットの確立
- (4)ラグビー普及及び選手発掘 Bigman & Fastman Camp

**2.活動スケジュール**

(1)国内 TID 合宿

6月、8月、12月、1月、2月、3月

(2)海外遠征

3月

## 男子 7 人制

### 1.強化方針

- (1)HCBC SVNS への参戦、アジア競技大会、ロサンゼルス五輪を見据えて、国際経験を通じて選手層の拡大を図る
- (2)管理栄養士、強化拠点と連携して世界で勝つ個の強化を進めていく
- (3)アカデミーから積極的な国際経験を促し、若い世代の競技力、人間力の向上を図りながら次世代選手の確保、チームの活性化を図る

### 2.活動スケジュール

#### (1)海外遠征

強化遠征 4月(香港)、7月、9月

#### (2)国際大会

愛知名古屋アジア競技大会 (10月名古屋)、アジアラグビーエミレーツセブンズシリーズ (8月中国、10月スリランカ)、HSBC SVNS 2026-2027

#### (3)国内合宿

20回予定

## 男子セブンズユース/シニアアカデミー

### 1.強化方針

- (1)有能な選手の発掘と継続的な育成により SDS/日本代表へ選手を輩出
- (2)人間力の向上を図り国際社会で活躍できる人材の育成

### 2.活動スケジュール

#### (1)海外遠征

ユース ユース五輪 (10月セネガル)、コーラルコーストセブンズ (1月フィジー)

シニア 世界学生選手権 (9月南アフリカ)

#### (2)国内

ユース 6回、シニア 6回

## 女子 15 人制

### 1.強化方針

(1)2026~2028年 Global Window(9~10月)で開催される WXV Global Series での上位国対戦を通じて、ワールドカップ 2029年大会トップ 8への強化を行う

(2)国内コンペティションの再編を行い、女子 15人制の高強度ゲームの機会を増やす

### 2.活動スケジュール

#### (1)海外遠征

4月 25日~5月 5日 ARC 遠征 (カザフスタン)

9月 10~20日 WXV Global Series イタリア戦遠征

9月 21日~10月 4日 WXV Global Series アイルランド戦遠征

#### (2)国内

(合宿) 4月 13~24日、8月 18~25日、9月 1~9日

(試合) 10月 13日~11月 1日 WXV Global Series ウェールズ戦 2試合

## 女子7人制

### 1.強化方針

- (1)国際経験を通じて競技力全体の底上げを図る
- (2)国内外問わずオフフィールドの活動を積極的に取り入れることで人間力の向上を促しチームの成熟を図っていく
- (3)アカデミーから積極的な国際経験を促し、若い世代の競技力、人間力の向上を図りながら次世代選手の確保、チームの活性化を図る

### 2.活動スケジュール

#### (1)海外遠征

強化遠征（10月ニュージーランド）

国際大会

HSBC SVNS 2025-2026（12～6月） 11月29～30日ドバイ、12月6～7日ケープタウン、1月31日～2月1日シンガポール、2月7～8日パース、3月7～8日バンクーバー、3月14～15日ニューヨーク、4月17～19日香港、5月29～31日バリアドリッド、6月5～7日ボルドー

愛知名古屋アジア競技大会（10月1～3日名古屋）、アジアラグビーエミレーツセブンズシリーズ（8月15～16日中国、10月17～18日スリランカ）

HSBC SVNS 2026-2027

#### (2)国内合宿 14回

## 女子セブンズユース/シニアアカデミー

### 1.強化方針

- (1)有能な選手の発掘と継続的な育成により SDS/日本代表へ選手を輩出
- (2)人間力の向上を図り国際社会で活躍できる人材の育成

### 2.活動スケジュール

#### (1)海外遠征

国際大会

ユース ユース五輪（10月セネガル）

シニア 世界学生選手権（9月南アフリカ）

#### (2)国内合宿 ユース10回、シニア2回

# 専門委員会

ガバナンス委員会

コンプライアンス委員会

監査委員会

ハイパフォーマンス委員会

ユース委員会

アスリート委員会

安全対策委員会

メディカル委員会

競技運営委員会

普及育成委員会

女子委員会

アンチ・ドーピング委員会

財務委員会

## ガバナンス委員会

### 1.活動方針

スポーツ団体ガバナンスコードに沿った当協会のガバナンスに関する監督・提言など

### 2.事業計画

組織のガバナンスに関する課題・強化策について、理事会からの諮問などにより委員会にて議論し、理事会に答申する

### 3.活動スケジュール

委員会の開催（原則月1回）

## コンプライアンス委員会

### 1.活動方針

コンプライアンス強化に係る方針や計画の策定及びその推進、実施状況の点検、リスクの把握など

### 2.事業計画

- (1)委員会の開催（4回）
- (2)コンプライアンス関連の規程整備
- (3)コンプライアンス関連の研修の計画検討
- (4)コンプライアンスの問題状況の把握と評価
- (5)コンプライアンスに関わる体制の整備

### 3.活動スケジュール

委員会の開催（5、7、10、2月）

## 監査委員会

### 1.活動方針

諮問機関として各部会や三支部協会から提起された事項につき、共同して解決策を協議する。必要があれば、協議の場を設定するなどの介入も行う

### 2.事業計画

- (1)第9回ドクターカンファレンスの経費などの監査
- (2)関東協会の内部未収金案件への対応（継続案件）
- (3)その他案件が生じた都度対応

### 3.活動スケジュール

ドクターカンファレンス監査（4～5月）、関東協会の内部未収金問題（随時実施）

## ハイパフォーマンス委員会

### 1.活動方針

以下について、委員会にて調査、討議し、CRO に提言を行う

- (1)強豪国の動向
- (2)世界各国のエリートコーチの動向
- (3)強化拠点整備に必要とされる機能、施設
- (4)各種大会における Shape of the Game と競技規則
- (5)各代表チームのパフォーマンス

### 2.事業計画

委員会の開催（委員長判断または委員からの要請により開催）

## ユース委員会

### 1.活動方針

以下について委員会で討議し、会長に提言を行う

- (1)ユース世代が安心・安全にプレーできる環境を提供するため、当カテゴリー独自のルールを検討するとともに、ラグビーの価値を守る
- (2)合同チームの在り方を検討するとともに、プレーヤーがプレーできる環境について議論し、合同チームの価値を高める
- (3)成長期にある選手を指導するユースコーチの在り方を検討するとともに、学びの場となる研修など機会創出をサポートする
- (4)競技・指導者人口の減少、学校間の部員数の格差から起こるチーム力格差（競技性・安全性の担保）、ユース大会の商業的価値の健全な活用など、ユース世代課題について検討する
- (5)全国高体連ラグビー専門部及び代表強化部門と連携した、高校日本代表監督及び17歳以下日本代表監督の選考をサポートする

### 2.事業計画

#### (1)委員会の開催

委員長判断の下、または委員からの要請により、以下大会前後に必要な応じ開催（国民スポーツ大会・全国高校大会、全国高校選抜大会、高校7人制大会、全国合同チーム大会、U17/U18 合同チーム東西対抗戦）、活動方針に係る委員会の適宜開催

#### (2)大会視察

委員会事務局による大会視察及び大会サポート

## アスリート委員会

### 1.活動方針

アスリートファースト（プレーヤーズファースト）の理念の実現に向けた活動を基本方針とし、ラグビーへの信頼を維持・確保する。そのため、本委員会委員を通じて選手の意見をくみ上げ、組織運営に反映させる取り組みを実施していく

### 2.事業計画

#### (1)トップアスリートの安全安心確保・推進

- ・マネジメント、ハラスメント、セカンドキャリアのアンケート実施
- ・アスリート委員が代表合宿などに出向き講習など実施する
- ・ラグビーでの安全安心対策の徹底により、ラグビーの高潔性並びに、安全安心なスポーツであるというイメージの定着を図る
- ・選手の環境と価値を守るため、インテグリティ教育コンテンツの充実

#### (2)他部門との連携

- ・安全対策委員会、脳震盪作業部会、ハイパフォーマンス部門、女子委員会、リーグワン他との連携によるアスリートファーストの理念実現
- ・ラグビー重症外傷への最先端医療推進支援基金の活動への支援実施

### 3.活動スケジュール

- ・委員会の開催（5～7月、10～12月、2～3月）
- ・他委員会・部門との連携・会議など（前期2回、後期2回）
- ・ハイパフォーマンス委員会合同会議及び視察（4回/年）
- ・代表活動中のアンケート調査・分析（4～6月、9～11月）

## 安全対策委員会

### 1.活動方針

- (1)重症事故撲滅を図るべく発生事故に対する調査・分析・研究を行い、対策を検討する
- (2)選手・チーム責任者及びすべての関係者に対し重症事故撲滅への意識付けを行い、自ら事故撲滅・安全推進活動を展開できる組織的なサポートを実行する

### 2.事業計画

- (1)安全対策委員会の開催（年4回）
- (2)安全推進講習会・セーフティーアシスタント認定講習会の開催
- (3)三支部協会及び都道府県協会安全対策委員会との連携強化
- (4)関連組織(メディカル委員会、普及育成委員会、テクニカルサービス部門、普及育成委員会、代表強化部門など)との連携強化
- (5)傷害見舞金制度の提供
- (6)安全に関する通達発信

### 3.活動スケジュール

- (1)委員会の開催（6、9、12、3月）
- (2)安全推進講習会（2026年3月～2027年3月）
- (3)外傷障害対応マニュアル改訂版発行（2026年3月）
- (4)セーフティーアシスタント認定講習会（2026年3月～2027年3月）
- (5)菅平SAFEプロジェクト（8～9月）

## メディカル委員会

### 1.活動方針

- 三支部協会及び都道府県医務委員会間の整合性をとりながら広範な医学的支援を実施
- (1)三支部協会連絡協議会の開催（12月）
  - (2)日本協会主催試合医務担当
  - (3)日本代表チームメディカル部門担当（海外遠征帯同ドクター派遣）
  - (4)リーグワン・メディカルコントロール部会への協力
  - (5)マッチデイドクター（チームドクター含む）の養成
  - (6)ラグビードクターカンファレンスの開催
  - (7)アジア協会加盟国への協力
  - (8)JOC、スポーツ協会、JISS との連携強化及び他必要な事業
  - (9)女子委員会への医学的支援
  - (10)全国医務委員長会議の開催準備（2027年を予定）
  - (11)レガシー委員会と連携し、重症脊髄損傷に対する再生医療の導入への協力

### 2.事業計画

- (1)委員会開催 医事担当部門会議、三支部協会連絡協議会
- (2)医務担当日本協会主催試合（主管協会と連携）
- (3)各カテゴリー日本代表チームメディカル担当（含む海外遠征）
- (4)ラグビードクターカンファレンスの開催
- (5)ワールドラグビーメディカルカンファレンスへの派遣（ワールドラグビーマッチデイドクター資格の取得推進）

(6)アジア協会主催試合へのマッチデイドクター派遣

### 3.活動スケジュール

- (1)メディカル委員会総会（3月）
- (2)三支部協会連絡協議会（12月）
- (3)第11回ラグビードクターカンファレンス（6月）

#### トレーナー部門

##### 1.活動方針

ラグビー現場における選手の健康・安全管理及び競技力向上を支えるトレーナー支援体制を整備する。代表・リーグワン・女子・育成年代を含む関係部門と連携するとともに、人材育成と教育・啓発活動を通じてトレーナーの質的向上を図る。

##### 2.事業計画

- (1)トレーナー育成・知識向上を目的としたセミナー・研修会の実施
- (2)教育・啓発資料の作成及び情報発信
- (3)各カテゴリー・大会へのトレーナー支援体制の構築・環境整備
- (4)関係部門・委員会との組織横断的連携事業の推進

##### 3.活動スケジュール

- (1)トレーナーセミナー（1～3月）
- (2)トレーナー研修会 九州（5月）・関東（2月）・関西（3月）
- (3)女子ラグビー関係者向けトレーナー研修会（6月）
- (4)リカバリースタッフ（仮）養成講習会（8月）

## 競技運営委員会

日本協会各種大会の実施要項の策定と競技運営、会場運営の計画設計を行い、円滑な大会運営を行うと同時に競技者のみならず、内外ステークホルダー、ファンの皆様へのサービス提供を行う。国内外の各種大会、催物の研修視察も検討する

#### 主催大会スケジュール

##### 1.国際試合

(1)男子15人制日本代表戦

リポビタンDチャレンジカップ2026

6月27日 JAPAN XV vs マオリ・オールブラックス（瑞穂）

8月8日 日本代表 vs オーストラリア代表（花園）

その他、秋季開催を検討中

ネーションズチャンピオンシップ2026

7月4日 日本代表 vs イタリア代表（秩父宮）

7月18日 日本代表 vs フランス代表（国立）

その他、ワールドラグビー主催大会開催を検討中

(2)女子15人制日本代表戦

国際試合、国内テストマッチの秋季開催を検討中

##### 2.第63回全国大学選手権大会

14チームによるトーナメント（11～1月）

## 大学大会部門

- (1)第 77 回全国地区対抗大学大会 (12~1 月)
- (2)部門会 大学全国大会の実施要項の協議、並びに大会発展のための施策検討を行う

## 国スポ部門

- (1)第 80 回国民スポーツ大会 (成年男子・少年男子・女子、10 月青森市・八戸市)
- (2)第 81 回大会以降の開催県・開催地・都道府県協会、及び日本スポーツ協会と打合せを実施

## 社会人部門

- (1)三支部協会主催、各社会人リーグの普及発展強化のための施策検討のための部門会実施
- (2)三地域社会人リーグ順位決定戦の実施・試合運営
- (3)リーグワン・三支部協会・日本協会との連携 (新規参入などの協議)

## クラブ大会部門

- (1)第 34 回全国クラブ大会  
1 回戦 1 月 17 日、準決勝 1 月 31 日、決勝 2 月 14 日に開催、参加 8 チーム (関東 3、関西 3、九州 2) を予定
- (2)学生クラブ東西交流フェスティバル in 菅平 2026 (9 月 4~6 日、16 チーム参加予定、交流戦・安全対策・指導者・レフリー各講習会実施)
- (3)第 25 回東西学生クラブ対抗試合 (12 月 13 日神戸)
- (4)部門会 6、10 月 (東京) 及び 2 月 (愛知) にて開催、各大会運営・

日程・大会概要協議並びに三支部協会管下クラブ環境の情報交換など

## 高校大会部門

### 1.高校大会・研修会

- (1)サニックスワールドラグビーユース交流大会 (4~5 月福岡)
- (2)第 13 回全国高校 7 人制大会 (7 月菅平)
- (3)第 22 回全国高校合同チーム大会 (7~8 月菅平)
- (4)第 57 回全国高専大会 (1 月神戸)
- (5)第 106 回全国高校大会 (12~1 月花園)
- (6)第 19 回 U18 合同チーム東西対抗 (1 月花園)
- (7)第 51 回高校指導者研修会 (1 月東京)
- (8)第 28 回全国高校選抜大会 (3 月熊谷)

### 2.高校女子大会

- (1)サニックスワールドラグビーユース交流大会 (4 月福岡)
- (2)第 16 回全国高校女子合同チーム大会 (7~8 月菅平)
- (3)第 9 回全国 U18 女子セブンズ大会 (10~11 月熊谷)
- (4)U18 花園女子ラグビー (12 月花園)

## 女子大会部門

- (1)太陽生命ウィメンズセブンズシリーズ 2026 (5~8 月)  
本戦 3 大会とチャレンジャートーナメント 2 大会、2027 年シーズンの昇格大会を含むグランドファイナルを開催
- (2)第 13 回大学女子 7 人制交流大会 (5 月)
- (3)第 13 回全国女子大会 (1~2 月)

## 普及育成委員会

### 1.活動方針

中期戦略計画の普及育成 Pillar における 4 つの領域（プレーヤー、登録者、体験者、推進体制強化）に沿って、日本協会普及育成部門と普及育成委員会各部門が、三支部協会、都道府県協会と連携して、「誰もが、いつでも、どこでも、ラグビーを楽しめるように、ハードルを低くし、価値を高め、長く関われる環境をつくる」ことで、プレーヤー10万人、登録者12万人、体験者120万人を目指す

### 2.事業計画

- (1)コーチング コーチ講習会、研修会
- (2)小学生 (U12) フレンドリーマッチ、指導者育成他
- (3)中学生 (U15) 都道府県別ジュニアラグビーベースキャンプ他
- (4)クラブ (O15) X-エリアユースラグビー他
- (5)ノンコンタクト タグラグビー、T1 Rugby の普及拡大他
- (6)みんなでラグビー マネジャー会議、障がい者とラグビーをつなぐ
- (7)国際協力 ユースリーダーシッププロジェクト他

### 3.活動スケジュール

- (1)コーチング
  - ・スタートコーチ、C級、B級、A級、S級コーチ資格講習会
  - ・コーチカンファレンスの開催 (9月)
- (2)小学生 (U12)
  - ・FOR ALL ミニラグビーフレンドリーマッチ (10月)

- ・ミニラグビー指導者講習会
- (3)中学生 (U15)
  - ・都道府県別ジュニアラグビーベースキャンプ (通年)
  - ・太陽生命カップ2026 第17回全国中学生大会 (9月)
  - ・第32回全国ジュニア大会 (12月)
- (4)クラブ (O15)
  - ・X-エリアユースラグビー (調整中)
- (5)ノンコンタクト
  - ・T1 Rugby World Rugby との協働プロジェクト (1~12月)
  - ・SMBC カップ全国小学生タグラグビー大会 (2月)
- (6)みんなでラグビー
  - ・マネジャー会議 (5、7月)
  - ・障がい者とラグビーをつなぐ (9、10、11、2月)
- (7)国際協力
  - ・ユースリーダーシップ育成プログラム (1~9月)
  - ・World Rugby Growth Conference (9月)
- (8)その他
  - ・放課後ラグビープログラム
  - ・スクラム・ジャパン・プログラム ジャンボリー、地域協会助成
  - ・みんなでつなげる！ラグビースクール体験会 (3~6月)
  - ・ラグビー・エンパワメント・プロジェクト (5~12月)
  - ・都道府県別普及育成中期戦略計画エリア会議 (6~9月)
  - ・都道府県女子活動拠点事業 (8~3月)

## 女子委員会

### 1.活動方針

パスウェイ構築、コミュニティ構築、リーダーシップ育成に重点を置き、各部門、各委員会と連携しながら、女性が、生涯に渡り、ラグビーに携われる環境を整備し、機会を提供する。女子ラグビー認知度を高め、共感者を増やし、女子ラグビーコミュニティを拡大していく。ラグビー界において女性活躍を促進し、社会で活躍できる人材を輩出する

### 2.事業計画

#### (1)パスウェイ構築

- ・U17 ブロック活動（10 ブロック）
- ・近隣県交流活動（三支部協会）
- ・女性ハイパフォーマンスコーチアカデミー

#### (2)コミュニティ構築

- ・女子ラグビーブランディング策定
- ・女子に特化したオウンドメディアによる定期的な情報発信
- ・日本協会主催女子大会・試合開催サポート・プロモーション

#### (3)リーダーシップ育成 キャリアセミナーの実施

#### (4)各部門・委員会との連携

### 3.活動スケジュール

- ・委員会の開催（毎月1回）
- ・日本協会主催の女子日本代表戦、大会のサポート・プロモーション（5～3月）

- ・U17 ブロック活動/近隣県交流活動（通年）
- ・女性ハイパフォーマンスコーチアカデミー研修会（年4回）
- ・関東女子大会（11～2月）
- ・女子関西大会（11～2月）
- ・ガールズラグビーフェスティバル（関東）、ウィメンズラグビーフェスティバル（関西）、サニックスガールズラグビーキャンプ（九州）（3月）
- ・脳震盪に関するセミナー（4～5月）

## アンチ・ドーピング委員会

### 1.活動方針

日本ラグビーの価値を守り高めるため、アンチ・ドーピング活動を通じてスポーツのフェアネスを推進する

### 2.事業計画

#### (1)ドーピング検査事業

- ・ドーピング検査の協力（NF-Rep派遣、シャペロン手配など）
- ・JADA及びワールドラグビーの居場所情報管理の対応・指導助言
- ・治療使用特例（TUE）申請手続きの指導助言

#### (2)アンチ・ドーピング教育啓発活動

- ・アンチ・ドーピング研修会の開催（日本代表、大学リーグなど）
- ・アウトリーチプログラムの展開（ジュニア世代大会、国際試合など）
- ・禁止物質に関する問い合わせ対応（フォームでの運用）
- ・日本協会メディカル委員会やリーグワンMC部会との連携

#### (3)アンチ・ドーピングに関する研究活動

- ・スポーツ医学関連学会や薬学関連学会における学術発表
- ・ワールドラグビー研究助成への申請

### 3.活動スケジュール

- (1)アンチ・ドーピング委員会（3、6、12月）
- (2)研修会（代表チームスケジュールなどにより適宜実施）
- (3)アウトリーチプログラム（中学生9月、高校生12月、国際試合）
- (4)アンチ・ドーピング教育会議（11月）

## 財務委員会

### 1.活動方針

財務面から運営改善に向けた提言を行う

### 2.事業計画

- (1)2026 年度予算・実績管理の補助
- (2)2027 年度予算策定方針についての助言
- (3)財産運用方針及び実績管理についての助言

### 3.活動スケジュール

委員会の開催（四半期毎）

# 三支部協会

関東ラグビーフットボール協会

関西ラグビーフットボール協会

九州ラグビーフットボール協会

## 関東ラグビーフットボール協会

### 1.活動方針

東日本地域のラグビーフットボールに関する中枢機関として、競技の健全な発展とその普及を図り、スポーツマンシップの涵養とスポーツ文化の発展に寄与する

### 2.主催大会

(大学)

第 27 回東日本大学セブンズ大会 (4 月秩父宮)、第 15 回関東大学春季大会 (4~6 月自校 G・公共会場)、関東理工系リーグ (5~6 月自校 G)、第 14 回関東大学オールスターゲーム 2026 (7 月秩父宮)、関東大学リーグ戦 1 部~5 部 (9~12 月自校 G・公共会場)、関東大学対抗戦 A/B (9~12 月自校 G・公共会場)、第 48 回関東大学ジュニア選手権 (9~11 月自校 G)、第 74 回関東医歯薬リーグ (9~11 月自校 G・公共会場)、東北・北海道地区公式戦 (9~10 月自校 G・公共会場)、第 77 回全国地区対抗関東 1 区/2 区 (10~11 月自校 G)、北日本大学交流戦 (10 月)

(女子)

関東女子セブンズ大会 (4~6 月自校 G・公共会場) ブロック国体・第 81 回国民体育大会予選会 (8 月各ブロック公共会場、北海道大会、東北大会、関東大会、北信越大会)、全国 U18 女子セブンズ関東予選 (9 月)、全国 U18 女子セブンズ北海道予選 (9 月)、全国 U18 女子セブンズ東北予選 (9 月)、第 37 回関東女子大会 (11~1 月)、第 20 回ガールズラグビーフェスティバル (3 月熊谷)、第 10 回関東 U18 女子セブンズ大会

(3 月熊谷)

(社会人)

トップイーストリーグ (5~6 月自 G・公共会場)、ブロック国体・第 81 回国民体育大会予選会 (8 月各ブロック公共会場、北海道大会、東北大会、関東大会、北信越大会)、トップイーストリーグ秋季 (9~12 月自 G・公共会場)、関東社会人リーグ (9~11 月)、全国社会人トーナメント大会 (12 月)

(クラブ)

東日本クラブセブンズ 2026 (5 月、社会人・学生)、第 45 回ラグビーフェスタ 2026 (7 月アンダーアーマー菅平サニアパーク)、第 32 回ラグビーフェスタ 2026(8 月八幡平市ラグビー場、ブロック国体・第 81 回国民体育大会予選会 (8 月各ブロック公共会場、北海道大会、東北大会、関東大会、北信越大会)、第 36 回東日本クラブ選手権大会 (兼全国クラブ大会東日本地区予選、9~11 月)、第 34 回関東学生クラブ選手権大会(9~11 月)、第 23 回東日本トップクラブリーグ(9~11 月)、東日本マスターズ大会 2026 (10 月)、第 43 回東北クラブ選手権大会 (11 月)

(普及)

第 8 回東日本ジュニアラグビー東北ジャンボリー(5 月)、第 77 回関東中学校大会 (6 月熊谷・AGF フィールド)、第 20 回東日本 U15 中学生クラブ大会 (兼) 太陽生命カップ 2026 第 17 回全国中学生大会、東日本地区 ラグビースクール 2nd ステージ&女子の部 1st ステージ(6 月栃木県総合運動公園)、東日本ミニラグビー菅平ジャンボリー (7 月アンダーア

ーマー菅平サニアパーク)、第 28 回東日本ジュニアラグビー菅平ジャンボリー、第 31 回全国ジュニア大会の関東甲信越地区中学校選考試合(7月アンダーアーマー菅平サニアパーク)、太陽生命カップ 2026・第 17 回全国中学生ラグビー大会北海道・東北地区中学校 2nd ステージ(8月)、東北北海道地区中学校予選試合(8月)、第 4 回北海道ミニジャンボリー(9月)、第 4 回北海道ジュニアジャンボリー(9月)、第 46 回東日本中学校大会(11月)、第 32 回全国ジュニア大会東日本地区スクールの部・女子の部予選(11月)、第 23 回東日本 U15 中学生ラグビー選抜大会(3月ケーズデンキスタジアム水戸)

(高校)

地区大会(6月各ブロック公共会場)第 53 回北海道高校大会、第 77 回東北高校大会、第 74 回関東高校大会、第 48 回北信越高校大会、U16 ブロックトレセン・U17 ブロックトライアウト(6月各ブロック公共会場)北海道ブロック、東北ブロック、関東ブロック、北信越ブロック、第 28 回全国高校選抜大会地区予選(2月公共会場)、北海道新人大会 東北新人大会、関東新人大会、北信越大会、関東都県対抗戦(2月公共会場)、合同チーム大会(3月各ブロック公共会場)北海道大会、東北大会、関東大会、北信越大会

### 3.委員会活動

(1)メディカル委員会

- ・歯科委員会(4、7、3月東京)
- ・医師派遣委員会(7月)
- ・都道府協会メディカル委員長会議(9、1月東京)

・メディカル総会(9月東京)

(2)レフリー委員会

- ・レフリー委員会(毎月)
- ・都道府協会レフリー委員長会議(3月東京)
- ・関東レフリー講習会(5月首都圏試合会場)
- ・B級レフリー認定講習会(6月北海道、8月菅平)
- ・レフリー・レフリーコーチ研修会(8月)
- ・関東協会各種大会レフリー研修会へ委員・レフリーコーチ派遣(6月) 関東高校大会会場、東北高校大会会場(6月)

(3)コーチ委員会

- ・関東協会主催大会事前運営会議(東京、大会毎)
- ・関東協会主催大会チーム代表者会議(東京、大会毎)
- ・日本協会主催大会事前会議(東京、大会毎)
- ・中学校部門会議(東京、5、2月)
- ・ジュニア部門会議(東京、3月)

(4)社会人委員会

- ・社会人委員会(東京)
- ・三地域社会人委員長合同連絡会議
- ・都道府協会社会人委員長会議(東京、3月)
- ・チームとの意見・情報交換会(試合会場)

(5)クラブ委員会

- ・クラブ委員会(東京)
- ・クラブ総務委員会(東京)
- ・学生クラブ運営会議(東京)

## (6)女子委員会

- ・都道府協会女子委員長会議（5月東京）
- ・女子総務委員会（毎月東京）
- ・関東女子大会チーム編成会議（7月）
- ・高校女子セブンズ大会抽選会議（9、2月）
- ・関東協会主催大会、チーム代表者会議（大会毎）
- ・チーム・選手登録ガイダンス（3月）

## (7)大学委員会

- ・大学委員会（毎月東京）
- ・監督者意見交流会（隔月東京）
- ・秋季公式戦スケジュール会議（5月東京）
- ・メディアカンファレンス（9月東京）
- ・主務会議（大会毎）

## (8)高校委員会

- ・関東高校委員会（4、5、6、12、2月東京）
- ・各ブロック委員長会議（4、6、12、2月）
- ・高校大会組合せ抽選会議（6、9、2月試合会場）

## (9)登録者傷害見舞審査委員会

- ・見舞金審査委員会（毎月東京）

## 関西ラグビーフットボール協会

### 1.活動方針

関西協会ビジョン「関西22府県がひとつになって、ラグビーをする人、見る人、支える人の輪を拡げる」を着実に実行していく。普及・育成・強化・社会貢献の4つの柱で、仲間と共にラグビーの発展のために活動していく

### 2.主催大会

#### (1)関西協会

2026関西セブンズフェスティバル（4月花園）

#### (2)U12普及育成委員会

（ミニ部門）

第19回関西ミニジャンボリー交流大会、四国ブロックミニラグビー交流大会、北陸ブロックミニラグビー交流大会、ラグビーマガジンCUP関西ミニラグビー交流大会、中国ブロックミニラグビー交流大会、東海ブロックミニラグビー交流大会、近畿ブロックミニラグビー交流大会、関西ミニ女子交流大会

（タグ部門）

第13回四国選抜タグ大会、タグラグビー交流大会DREAMカップin石川、関西タグチャンピオンシップ大会、全国タグブロック大会、岡山ドームタグフェスタ、第12回北陸タグラグビーフェスタ勸進帳CUP、東海タグラグビー交流大会

#### (3)U15普及育成委員会

（中学・スクール部門）

太陽生命カップ2026第17回全国中学生大会関西地区予選（スクールの部）（6月大阪）、第47回関西中学生大会北陸ブロック予選（6月富山）、第47回関西中学生大会東海ブロック予選（6月岐阜）、第47回関西中学生大会中国四国ブロック予選（6月広島）、第47回関西中学生大会（7月数河高原他）、第28回関西中学生数河ジャンボリー、北陸地区ジャンボリー（5月）、第32回全国ジュニア大会近畿スクール予選・第28回近畿スクール交流大会（11月上富田スポーツセンター）、第32回全国ジュニア大会東海ブロック予選（11月豊橋市民球技場）、第32回全国ジュニア大会中国四国ブロック予選（11月広島）、第30回中四国ブロックジュニア交流大会（U15）（9月）、第30回中四国ブロックジュニア交流大会

（U14）（12月）、第18回関西スクールジュニア新人交流大会（3月佐野運動公園）

（女子中学生部門）

太陽生命カップ2026第17回全国中学生大会関西地区予選（女子7人制の部）兼第14回関西女子中学生大会（6月鶴見緑地球技場）、第12回関西女子中学生春季大会（7人制）（6月鶴見緑地球技場）、第9回関西U12女子春季大会（6月鶴見緑地球技場）、第32回全国ジュニア大会関西地区予選（女子の部）（10月花園）、第13回関西女子中学生秋季大会（7人制）

（10月花園）、第10回関西U12女子秋季大会（10月花園）

(4)社会人委員会

トップウエストリーグ（A,B,C）（9～12月各地）、全国社会人トーナメント大会（12～1月各地）

(5)クラブ委員会

第38回関西クラブ大会（9月美作ラグビーサッカー場）、第34回全国クラブ大会ブロック予選（9～12月各ブロック会場）、北陸・東海・近畿・

中国・四国各リーグ、関西学生クラブリーグ、関西シニア大会（9月美作ラグビーサッカー場）

(6)大学委員会

関西大学春季トーナメント（5～6月天理親里競技場他）、関西大学リーグ（A,B,C）（9～12月各地）、北陸・東海・近畿・中国・四国各リーグ、第63回全国大学選手権大会（東海・北陸・中国・四国代表決定戦（11月）

(7)高校委員会

第24回関西高校少人数校交流大会（6月）、各ブロック大会

(8)女子委員会

セブンズチャレンジシリーズ（5～7月）、第29回女子関西大会（11～1月）、ウィメンズラグビーフェスティバル（3月）、サニックス女子セブンズ関西予選会（3月）、合同練習会

### 3.委員会活動

(1)総務委員会

委員会開催（定例・臨時）

(2)医務委員会

総務部会（6、1月関西協会）、学術部会（11月関西協会）、救護対策部会（11月関西協会）、総会（2月クライトン新大阪）、新人ドクター育成講習会、府県役員へのピッチサイドファーストエイド講習会

(3)レフリース委員会

関西A パネルレフリー・KDS・CMO/セレクター研修（5月郡上）、関西B パネルレフリー・KDS・CMO/セレクター研修（5月天理）、関西パネル・候補レフリーの育成（5～7月）、三支部協会合同レフリー研

修（8月菅平）、レフリー・レフリーコーチ研修（8月菅平）、シーズン前レフリースタートミーティング&チームコーチ合同カンファレンス（9月大阪）、関西パネル・候補レフリーの育成（9～12月）、花園レフリーコーチ研修（12月花園）、新規パネルなど認定研修（3月上富田）

(4)強化・セレクション委員会  
委員会（5、9、1月関西協会）、委員派遣（大学リーグ・大学選手権など各試合）

(5)コーチ委員会  
総務部会（5、1月関西協会）、関西地区コーチ委員長会議（7月）、C級コーチエデュケーター養成講習会（3月）、A,B,C級コーチ養成講習会、指導に関する学習動画作成

(6)U12 普及育成委員会  
（ミニ部門）  
部門会議・ブロック会議（関西協会）、指導者講習会（2月）、MRR講習会（2月）  
（タグ部門）  
部門会議（6、10、12、3月関西協会）、大会視察（各地）

(7)U15 普及育成委員会  
（中学・スクール部門）  
部門会議・ブロック長会議  
女子中学生部門）  
部門会議・ブロック長会議

(8)安全対策委員会  
安全対策講習会（3～5月）、安全対策常任委員会（6月）、22府県安全対策委員会（7月）

(9)社会人委員会  
リーグ委員会、リーグ総会、スケジュール会議、リーグ主務会議、資格審査会議、レフリーカンファレンス、トップウエスト A リーグ YouTube ライブ配信・写真撮影

(10)クラブ委員会  
委員会（6～7月関西協会）、近畿クラブリーグ委員会（関西協会）

(11)大学委員会  
リーグ委員会、リーグ総会（7月）

(12)高専委員会  
全国高専大会実行委員会（11月兵庫）

(13)高校委員会  
委員長会議（4、12、2月）、普及指導講習会（各地）

(14)女子委員会  
委員会開催、女子ラグビーセミナー（2～4回開催）

(15)スケジュール調整委員会  
調整会議

(16)広報委員会  
委員会開催（8、3月関西協会）、プレスカンファレンス（9月花園）

(17)ツアー委員会  
委員会開催（6月関西協会）

(18)傷害見舞金審査委員会  
審査委員会の開催（毎月関西協会）

## 九州ラグビーフットボール協会

### 1.活動方針

ラグビーをする人、支える人、環境、文化にとって日本一恵まれた地域へ（重点目標）(1)競技人口、ファン、支援者の増加～いつまでもラグビーを続けられる環境づくり、(2)協賛、収益向上に向けて～賛助会員の新規獲得、協賛企業の開拓、(3)安全対策、コンプライアンス強化～ラグビーの価値の再認識と啓蒙

### 2.主催大会

#### (1)社会人

第 64 回九州セブンズ（木元杯全九州 7 人制）大会（4 月宮崎）、第 46 回九州ブロック国民スポーツ大会（成年の部、8 月鹿児島）、トップキューシュウリーグ リーグ戦（9～10 月各地）、トップキューシュウリーグ 順位決定トーナメント（11 月各地）、全国社会人トーナメント大会（12～1 月各地）

#### (2)クラブ

第 45 回九州惑ラグビー交流大会（6 月鹿児島）、第 20 回九州トップクラブリーグ戦（9 月～1 月各県）、第 2 回九州社会人クラブ大会（11 月沖縄、鹿児島）、第 34 回全国クラブ大会（1～2 月）、第 4 回おきなわ惑フェスティバル（3 月）

#### (3)大学

九州学生ラグビーリーグ（9～11 月福岡他）、第 62 回全国大学選手権 2 回戦（11 月福岡）

#### (4)高専

第 35 回九州高専新人大会（5 月福岡）、第 63 回九州地区高専大会

#### (5)高校

サニックスワールドラグビーユース交流大会 2026（4～5 月福岡）、第 16 回全国高校女子合同大会九州代表選考会（6 月福岡）、第 79 回全九州高校大会（九州高体連主催、6 月宮崎）、第 46 回九州ブロック国民スポーツ大会（8 月鹿児島）、第 8 回九州高校 U18 女子セブンズ大会（9 月福岡）、第 106 回全国高校選手権大会各県予選（10～11 月各県）、第 18 回九州 U16・U17 交流会（12 月福岡）、サニックスワールドラグビーユース交流大会 2026 予選会（1 月福岡）、第 49 回全九州高校新人大会（2 月長崎）、第 14 回九州高校選抜女子セブンズ大会（2 月長崎）、第 28 回九州高校 10 人制大会（3 月沖縄）

#### (6)中学

第 39 回新島旗九州中学校大会（7 月鯛生）、第 9 回九州女子中学生大会、第 48 回新島杯九州ジュニア大会（7～8 月鯛生）、第 27 回ジュニアラグビー九州ブロック大会（男子・女子、10 月熊本）

#### (7)普及育成

（ミニラグビー）

第 27 回西九州ブロックミニラグビー交流大会（6 月福岡）、第 53 回九州ミニラグビー少年交歓会（9 月熊本）、第 27 回東九州ブロックミニラグビー交流大会（11 月熊本）、第 15 回トライドリームカップ（11 月長崎）、第 27 回南九州ブロックミニラグビー交流大会（12 月鹿児島）、第 6 回九州女子ミニラグビー交流会（2 月佐賀）、第 19 回沖縄県ブロックミニラグビー交流大会（2 月沖縄）

(タグ)

九州タグフェスタ (8月沖縄)、第22回全国小学生タグラグビー大会 (九州ブロック予選大会1月佐賀)、第20回九州女子タグラグビー大会 (2月佐賀)、各県タグラグビーフェスタ (各県)

(8)女子

サニックスワールドラグビーユース女子セブンズ大会 (4月福岡)、南部九州女子交流大会 (5月鹿児島)、北部九州女子交流大会 (5月佐賀)、第46回九州ブロック国民スポーツ大会 (女子、8月鹿児島) 第16回九州ガールズフェスタ (12月福岡)、第4回九州女子ラグビー選手権 (1月福岡)、ナナイロカップ九州ウィメンズセブンズ (3月福岡)

### 3.委員会活動

(1)レフリー委員会

レフリー委員長会議 (6、12、2月)、レフリー研修会 九州地区トップレフリー研修会 (7~8月大分)、九州地区レフリー研修 (7月大分)、九州地区B級レフリー認定講習会 (8月熊本)、三地域協会トップレフリー研修会 (8月長野)、九州ミニラグビー研修会 (8月熊本)、各県巡回指導研修会 (1~3月各県)、レフリー派遣 (各地)、レフリーコーチ及び評価 (各地)、コーチ・アセッサー研修会 (6月熊本)、レフリー評価委員会 (6、3月福岡)、九州アカデミー研修 (各地)、女子レフリー研修会

(2)社会人委員会

トップキュウシュウリーグ主務会議 (9月)

(3)クラブ委員会

各県クラブ委員長会議 (6、11月鹿児島)、総務委員会 (6、9、1月)

(4)大学委員会

大学委員長会議 (6、8、12月)、マネジメント講習会 (6月)、トレーナー研修会 (7月)、ゲームパフォーマンス分析講習会(8月)、コンプライアンス研修会 (8月)、リーグ参加チーム代表者会議 (6、8月)、九州山口医科学系大学安全講習会 (3月)

(5)高専委員会

九州高専委員長会議 (11月福岡)、第39回九州高専チームリーダー講習会 (3月福岡)

(6)高校委員会

九州高体連ラグビー専門部委員長会議 (6月宮崎)、九州高校強化委員会 (6月宮崎)、U17九州代表選考合宿 (7月佐賀)、U16九州ブロックトレセン (7月佐賀)、第16回全国高校女子合同大会九州代表強化合宿 (7月福岡)、九州高校委員会及び強化委員会 (2月長崎)、2027TIDユースキャンプ西日本トレセン (九州・中国・四国、3月山口)、次年度U17九州代表候補合宿 (3月佐賀)

(7)コーチ委員会

全国コーチ委員長会議、コーチカンファレンス兼コーチブラッシュアップ研修会 (9~10月)、S級コーチ養成講習会 (5、6、10月)、A級コーチ養成講習会、トップアスリート推薦者講習会 関東協会 (7月埼玉)、関西協会 (7月大阪)、九州協会 (7月福岡)、自己推薦 (2月埼玉)、B級コーチ養成講習会 関東協会 (9月埼玉)、女性限定 (9月埼玉)、関西協会 (10月大阪)、他2回、C級コーチ養成講習会、スタートコーチ養成講習会

(8)中学委員会

各県委員長会議 (4月福岡、8月鯛生、10月熊本)、ジュニア・ラグ

ビーインストラクター研修（10月熊本）、第28回九州ジュニアラグビー鹿児島ジャンボリー（11月鹿児島）、第28回九州ジュニアラグビー福岡ジャンボリー（1月福岡）、ジュニアラグビー指導者講習会（各県）  
(9)普及育成委員会

総務委員会・総会（4月佐賀）、タグラグビー部門長会議（6月熊本）、タグラグビーエデュケーター講習会（8月宮崎）、RSプロモーション・指導者講習（8月佐賀）、MRRレフリー研修会

各県タグラグビーティーチャー研修会（各県）

(10)安全対策委員会

安全推進講習会・インテグリティ推進講習会（4～6月）、セーフティアーアシスタント認定講習会（4～7月）、2027年度安全推進・インテグリティ推進伝達講習会（2月）、2027年度九州協会スケジュール会議において研修会（2月福岡）、九州メディカル・安全対策委員会合同総会（委員長会議、3月福岡）

(11)強化委員会

大学生合同練習指導（6、9月）、強化委員会会議（12月福岡）

(12)総務委員会

会員名簿の作成、主要スケジュール、メンバー表の作成、配信

(13)広報委員会

九州協会公式ホームページ、SNSなどでの情報発信、各県広報委員長会議、報道機関への大会など開催告知及び結果配信、日本協会機関誌などへの情報提供（写真提供など）

(14)メディカル委員会

公式戦マッチドクター派遣（各県）、九州メディカル総務委員会（9月福岡）、九州協会メディカル委員会・安全対策委員会合同総会（3月福

岡）、日本代表チーム帯同医師派遣への協力・合宿時メディカルサポート、リーグワン・メディカルコントロール、PHICIS資格講習会 講師派遣（前期・後期）、医療器具 新規購入・器具修理、マッチデイドクター講習会（4月福岡・大分）、医科系安全対策実技講習会（3月福岡）  
(15)女子委員会

女子委員長会議（12月）

(16)マーケティング委員会

賛助会員募集強化策の検討・実施（福岡）、九州協会公式ホームページ、SNSの活用（福岡）、マーケティング委員会の会議開催（福岡）

(17)登録者傷害見舞金運営委員会

登録管理（各県各月登録状況管理、登録費入金管理、登録費決算管理、2～3月）、登録関連資料作成、傷害見舞金管理（傷害報告受付管理、傷害見舞審査会開催、傷害見舞金払出管理、傷害見舞金決算管理（2～3月）、傷害見舞関連資料作成管理）

以上